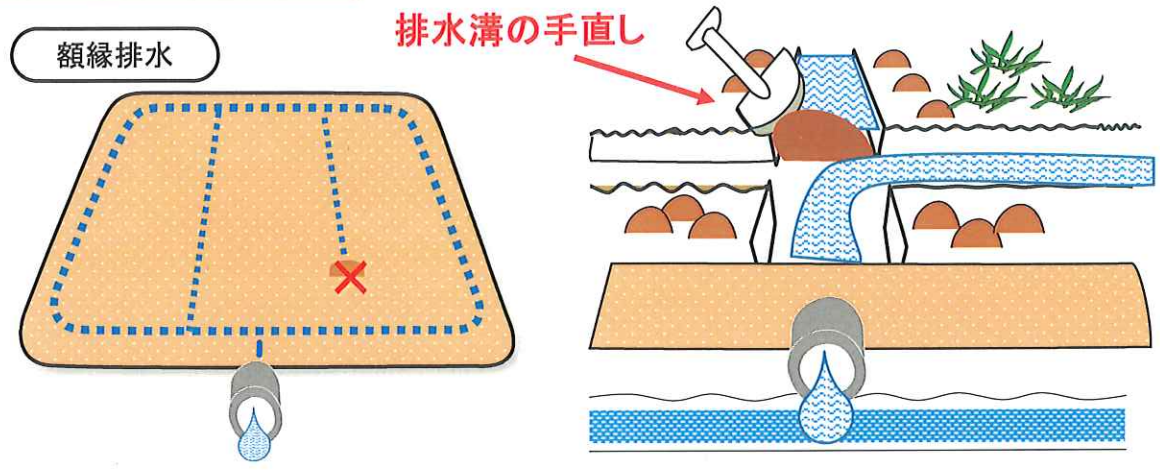


大麦情報

J A福井県
丹南営農経済センター

本年は暖冬の影響もあり、積雪は少ない状況にあります。圃場を見回り、停滞水を排除するなど排水溝の手直しを行い根の活力を高めましょう。
また、今年度産より品種がはねうまもちに全面切替になりましたので、“実肥”を遅れずに散布し収量を確保しましょう。

排水対策



除草対策

薬剤名	使用時期	薬量	希釈水量	使用回数
ハーモニー75DF水和剤	麦3葉期～節間伸長前	5～10g/10a	50～100ℓ/10a	1回

※ただし、使用回数が1回のため、播種後にハーモニー細粒剤を施用されている方は、水和剤は使用できませんので、ご注意ください。
※カラスノエンドウに対しては、実用的な効果まではありませんが、生育抑制は認められています。

実肥

…「はねうまもち」は“実肥”の施用が必要です。

実肥施用のタイミングは、出穂期～穂揃期になります。麦の莖立が早まることも想定されますが、3月中旬頃～4月上旬頃に遅れずに散布しましょう。

実肥	一括施肥	尿素	5kg/10a
	どちらの場合でも分施		



赤かび防除 (2回)

赤かび病は麦の開花時期が最も感染しやすく、曇天・降雨が続き気温が高いと多発します。



散布目安	1回目	穂揃期…圃場の80～90%が出穂した頃	4月中旬頃
	2回目	1回目(穂揃期)の7～10日後	4月下旬頃